

| 受理番号 | 受理年月日 | 件 名 及 び 要 旨 | 提 出 者 | 紹介議員氏名 | 付 託 委員会名 | 議決結果 |
|-------------|----------|---|---|--------------------------|-------------|------------|
| 26年 第18号 | 26.10.31 | <p>教育格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める 請願</p> <p>【請願趣旨】 子どもたち一人ひとりに確かな基礎学力をつけ、豊かな人間関係を育むためには、何よりもゆとりある学習環境、教育条件の整備が必要である。とりわけ、子どもの発達を保障するためには30人以下の「少人数学級」の実施は緊急の課題と考える。</p> <p>この観点から、これまで全都道府県は、様々な形で独自の施策を実施してきた。また、国も2011年度から小学校1年生の35人学級を導入した。本県においては、今年度から小学校全学年及び中学1年生において茨城方式の少人数学級を実施することになった。多くの県民は高等学校までへの少人数学級の拡大を期待している。</p> <p>また、社会に広がる経済格差が、子どもの生活や学習に大きな影響をあたえ、子どもの成長と将来に大きな影を落としている。家庭の経済状況や住んでいる地域によって、子どもの進路が狭まることのないよう、これ以上の高等学校の統廃合や学級減、定時制高校の廃止をとりやめて欲しい。</p> <p>全ての子どもが安心して学校生活を送れるよう、ゆきとどいた教育条件の整備のために教育予算を大幅に増やして欲しい。</p> <p>【請願事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校、中学校、高等学校の30人以下学級を早期に実現すること。 2 小学校、中学校、高等学校の統廃合を行わないこと。 3 教育費の父母負担軽減、私学助成を増額するなど、教育予算を大幅に増やすこと。 4 夜間定時制高校、フレックススクールの教育条件（教員 | <p>民主教育をすすめる茨城県民会議 神林 昇 外3,678名</p> | <p>大 内 久美子 鈴 木 聡</p> | <p>文教警察</p> | <p>不採択</p> |

| | | | | | | |
|--|--|--------------------------|--|--|--|--|
| | | の加配, 学校予算の増額など) を充実すること。 | | | | |
|--|--|--------------------------|--|--|--|--|